

よろずは

平成二六年

九月号

歌碑めぐり 9

近江八幡駅から近江鉄道に乗り換えて、のどかな田園風景のな
かを行くと市辺駅いちのへという無人駅に着きます。そのすぐ近く、船岡ふなおか
山の山頂にあるのが今回ご紹介する歌碑です。大きな自然石がゴロ
ゴロと積み重なっているなかに、ぽっかりと白く浮き出た石があり、
そこに歌が刻まれています。

歌は『万葉集』巻一の二〇番と二一番。蒲生野へ遊獵がもうのしたときに
交わされた額田王と大海人皇子の歌です。歌碑の文字がすべて漢
字なのは、『元曆げんりやく校本萬葉集』という写本の文字をそのまま石に
刻んでいるためです。

蒲生野の場所については未だ定かではありませんが、船岡山から
見える地域に蒲生野という地名がいくつか残っていることから、昭
和四三年に蒲生野顕彰会によってこの歌碑が建てられました。

船岡山のふもとは公園整備がなされており、紫草をはじめとし
た万葉植物や、蒲生野での遊獵を想像して描かれた陶板も見ること
ができます。

【万葉古代学係】

タイトルの「よろずは」は、「万葉」
を訓読みしたものです。



天皇遊獵蒲生野時額田王作歌

茜草指武良前野逝標野行野守者不見
哉君之袖布流

皇太子答御歌

紫草能尔保敝類妹乎尔苦久有者人孀故
尔吾恋目八方

船岡山（滋賀県東近江市市辺）